

ビデオマンの挑戦 (6月号)

八王子映像ビデオマン : Isomitsu Nogami 2019.5.29

毎月何かしら自分の中に発揚するテーマを作って記事にしたいと思っております。勿論自分の為であってその結果がどうなるのかは読んでくれる方がそういう考え方もあるんだね、程度で大満足でございます。

さて今回は SunDisk の Ultra 3D SSD です。時代の流れとでもいうのでしょうか色々なメディアが登場して消えてゆきます。誰も気には留めないでしょうか、パソコン好きな私は結構机の中に大切に保存しております。



試行錯誤とでもいうのでしょうか、後から考えるとあれはダメだったという一言でかたづけられてしまうものなので人はすぐに忘れてしまいます。CPU も Pentium i806 の時代からです。最初に購入したパソコンが IBM5550、ハードディスクは付いていませんでした。5 インチの FD をスロットに差し入れてプログラムを起動してそれからの作業でした。その後 5540 が出て NEC の PC98 が・・・トマレ それは何んなの？ パソコン知らずの者にとっては現在あるのみ。現在がどうなのか、それを直視しましょうよ。

HDD は磁気ヘッドで書き込み・読み出しをするプラッタは高速で回転する。衝撃に強く、発熱、消費電力が少ない一方 SSD は読み書きの速度が非常に速い。作動音がない。HDD よりサイズが小さく、軽いがコストパフォーマンスは HDD より大幅に悪い。ではソフトの面でエディウスを使つての書出しはどうなのか？どれくらい早くなるのか2時間の映像を2カメラ・3カメラでタイムラインにならべマルチ編集したものはどうなのか？また友達にデータを渡す場合などの利便性はと趣味の方が実益を押しぬけてしまう・・・。

私はそんな時間がとても楽しい。趣味の範囲であるからなのでしょうが、まあ人は人、知識を自分で体感して見る。多分長い目で見て仕事に役立つ事は間違いない。なによりそうこうした時間や結果が今日であるからだ。

亀戸文化センターで行われたこの道 50 年 [合原一夫映像リサイタル](#) (東京発表会) のご挨拶を映像化することが出来た。合原先生は「近藤幹太」さんのビデオ映像会 (プロジェクターで映像を見て) 映像をとおして多くの方々との交流が出来たと語っていました。日本映像作家連盟の会長という肩書からするといかめしいとも思えるがとても優しい方です。直接近藤幹太さんのことを聞いて何だか嬉しくなりました。ビズネット副会長の近藤一明さんの父君だからだ。大阪でまた二人の映像展を開催する6月8日とのことこちらも見に行くつもりだ。

つづく To be continued 野上五十満